

# 山形県公立大学法人附属図書館所蔵「林泉文庫」目録

石黒志保・阿部光柚

## はじめに

近代山形の郷土史家、伊佐早謙（一八五八—一九三〇）<sup>(1)</sup>が収集した蔵書「林泉文庫」は、山形県公立大学法人附属図書館（以下、当館）に所蔵する一〇二部五〇七冊のほかに、現在、山形県内の各所に収蔵されている【表1】。このうち、市立米沢図書館が昭和三十九年（一九六四）に同館の目録である『林泉文庫目録』を刊行し、その存在が広く知られるようになった<sup>(2)</sup>。

本稿は当館の前身である米沢女子短期大学附属図書館が、昭和三十一年頃に受入を行った林泉文庫の目録である。目録は、石黒志保（山形大学人文社会科学部）と阿部光柚（当館司書）が作成にあたった。

## 一、林泉文庫の来歴

伊佐早謙が郷土史家として、また上杉家史の編纂過程で収集した資料も含まれている林泉文庫は、伊佐早の自宅があった米沢市林泉寺町からその名が付けられている。近年になり、林泉文庫の研究は伊佐早の郷土史家としての業績とともに再評価されつつある<sup>(3)</sup>。特に平成二十五年（二〇一三）、うるま市教育委員会のメンバーが、「蔡大鼎『伊計村遊草』等調査研究事業」として当館に来訪し、資料番号18『見聞』及び資料番号80『朱子記録』が琉球関係資料であることを明らかにしたことは、その顕著な例であろう<sup>(4)</sup>。

昭和五年（一九三〇）四月に米沢図書館館長を辞した伊佐早は、同年六

月五日に死去、遺言により林泉文庫は上杉家に寄贈された。昭和十三年（一九三八）、その大半の一萬二二四〇冊が市立米沢図書館に寄託され、

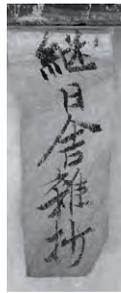
【表1】 山形県内の主たる林泉文庫

所蔵館	コレクション名	点数
市立米沢図書館	「林泉文庫」として整理	706部 (1,634冊)
	「米沢善本」として整理	20部 (109冊)
	「興譲館本」として整理	6部 (48冊)
	その他	調査中
山形大学附属図書館		1,267部 (5,516冊)
山形県公立大学法人附属図書館 (前米沢女子短期大学附属図書館)		102部 (507冊)
瑞龍院龍門図書館		497部 (1,987冊)
米沢市上杉博物館	「上杉文書」所収	調査中

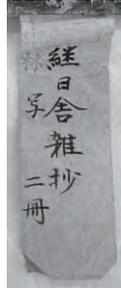
その際、林泉文庫の目録である『林泉文庫寄贈書及書目』（以下、『書目』）が作成されたと思われる。伊佐早没後の翌年に同家を訪ねた東北帝国大学司書官の田中敬氏によれば、伊佐早遺書は、米沢図書館館長の蘆川良輔らによって目録作成が行われていたらしく、この目録と『書目』との関連が考えられる<sup>(5)</sup>。昭和十三年一月二十日の「米沢新聞」には「伊佐早文庫 上杉家に寄附図書館に保管する」との記事があり、伊佐早が収集した資料群は郷土史研究上、貴重な古文書が多く、伊佐早没後、郷土史家たちは遺族に図書館へ委託して欲しいとの要望があったことが記され、当時においても伊佐早の蔵書群への関心が高かったことが窺える。

現在、その『書目』は市立米沢図書館に二冊、山形大学附属図書館に一冊所蔵されている。この『書目』が重要な点は、昭和十三年時点の伊佐早の自宅にあった林泉文庫の全容が確認されうることである。しかし、そこに記載されていない資料の存在も県外で散見される<sup>(6)</sup>。恐らくそれは伊佐早生前に手放したものとかわれ、「林泉文庫」等の蔵書印が捺されていることから文庫にあったものと知ることができる。その蔵書印(⑦⑧は落款か)は、現在、八点確認しているが、資料番号53『津軽一統志』の奥書には伊佐早の字で「大正二年癸丑十二月於弘前市購得 読史堂主人謙」とあり、「兼印」ともう一つ判読不明の印章があった。他本にないか現在確認中だが、それ以外、八点の印章は次のものである。

- ① 「林泉文庫」(縦三、三×横一、二cm)
- ② 「羽前 米沢市 林泉寺町 伊佐早謙」(縦五、五×横二、二cm)
- ③ 「伊佐早蔵本」(縦三、七×横三、七cm)
- ④ 「伊佐早謙」(縦三、〇×横三、〇cm)
- ⑤ 「伊佐早兼古書之宝」(縦二、二×横一、三cm)



付箋①



付箋②



ラベル



貼紙

【写真1】

資料番号17『継日舎雑抄』

- ⑥ 「伊佐早謙字君益之印」(縦一、七×横一、七cm)
- ⑦ 「兼印」(縦一、一×横一、一cm)
- ⑧ 「君氏益」(縦一、一×横一、一cm)

このうち当館で確認した蔵書印は①②③⑤⑥⑦である。さらに林泉文庫の指標となりうるものに【写真1】貼紙・付箋がある。このうち、貼紙・付箋①は伊佐早自身によるものだと思われるが、付箋②は県外で散見される林泉文庫には未だ確認されず、伊佐早没後、林泉文庫を整理した段階、つまり寄託されていた米沢図書館で貼られた可能性が高い。その付箋②と関連がありそうなものがラベルである。これは資料名の一文目と「図書館」の意味の「図」との記号が記されている。

さて『書目』の内容に戻るが、その『書目』は、『米沢藩興讓館書目集成 第四卷 林泉文庫書目解題・解説』に、全文写真掲載されている。原本は市立米沢図書館の事務室で使用しているものであり、多く書き込みが加えられている<sup>(7)</sup>。その見返しには同館の寄贈印で「昭和十三年十月 上杉家」と捺されており、この『書目』も林泉文庫に付随して寄託されたことがわかる。また、市立米沢図書館に所蔵される二冊の『書目』の目次には手書きで、

- 書目 一 上杉家本邸所蔵目録
- 書目 二 市立米沢図書館寄託書目録
- 書目 三 伊佐早家保留書目録

とあり、すべて市立米沢図書館に寄託されたのではなく、上杉家本邸と伊佐早家に保留された林泉文庫もあったことが確認される。このうち上杉家本邸に残されたものは、昭和二十九年(一九五四)に同家より市立米沢図書館が購入した「上杉文書」五〇六二点のなかに多くは組み込まれ、同文書として現在、米沢市上杉博物館にて整理されている<sup>(8)</sup>。

この寄贈の背景には上杉隆憲氏と米沢市との協議があり、上杉家が所

【表2】当館『図書原簿』に見られる当館所蔵「林泉文庫」（受入順）

	資料番号	書名	受入価格	受入日	受入先(購入先)
1	24	古今和歌集 2冊	150円	昭和 31.6.20	上杉氏
2	56	徒然草文段抄 6冊	450円		
3	40	常山紀談 15冊	350円		
4	25	古今和歌六帖標注 6巻	400円		
5	37	釈親考 2冊	200円		
6	28	扈蹕日乗 4冊	200円		
7	52	千曲之真砂 5冊	250円		
8	38	沙石集 10冊	350円		
9	49	太平記 10冊	450円		
10	48	大日本史 100冊	1,500円		
11	47	前賢古実 10冊	350円		
12	3	奥羽観蹟聞老志 20冊	350円	昭和 31.6.21	
13	69	円機詩韻法全書 6冊	300円		
14	11	象瀉行 1冊	100円		
15	73or74	三体唐詩 3冊	150円		
16	26	古事記 上中下	200円		
17	98	明治文抄 3冊	200円		
18		続明治文抄 4冊			
19	36	信濃奇勝録 5冊	300円		
20	39	十洲詩鈔 上下冊	50円		
21	102	山形県会史 1冊	300円		
22	66	村上文書 1冊	100円		
23	53	津軽一統志 7冊	200円		
24	78	七書 5冊	300円		
25	79	七書軍記図説			
26	94	応仁武鑑 2冊、続2冊	600円		
27	62	天保武鑑 3冊			
28	63	宝暦武鑑 2冊			
29	71	康熙字典 31冊	500円		
30	55	徒然草集説 5冊	400円	昭和 31.6.22	
31	41	尚不愧齋存稿 4冊	350円		
32	2	奥羽永慶軍記 16冊	850円		
33	89	陳書 4冊	850円		
34	72	後周書 8冊	350円		
35	1	いさよいの日記 1冊	—		
36	4	女消息往来 1冊	400円		
37	29/30	古文真宝 前集上中、後集上下			
38	10	陰徳太平記 16冊	300円		
39	10	陰徳太平記 5冊			
40	21	古語拾遺 1冊	昭和 32.5.25		
41	22	校正 古語拾遺 1冊		300円	
42	83	尚書 1冊		200円	
43	87	大学 1冊		300円	
44	14	京城勝覧 1冊		200円	
45	32	三礼口訣 1冊		200円	
46	44	春秋左氏伝例事 1冊		500円	
47	20	古訓抄 1冊		500円	
48	91/92	名臣言行録 12冊		800円	
49	70	憲章録 12冊		1500円	
50	65	明月記 11冊		500円	
51	77	通鑑綱目 6冊		800円	
52	67	和漢年契 1冊	—		

蔵する郷土関係の資料一切の譲渡を前米沢市長の登坂又蔵と上杉家とで話し合われてきたこと、林泉文庫のうち市立米沢図書館で不要なものは上杉家に返却することなどが取り決められたと「米沢新聞」一九五三年四月十五日に記事がある。さらに、市立米沢図書館に寄贈される古文書類はあわせて一五〇〇冊に上り、山形大学附属図書館教育学部分館が三十万円と査定した後、米沢市は二十五万円での追加予算計上を行ったという（「米沢新聞」一九五三年四月十八日）。この記事中の古文書類

とは林泉文庫だけではなく、上杉文書も含んでいたが、市立米沢図書館は林泉文庫のうち郷土に関する資料を選定した結果、一一一八冊を購入し<sup>9)</sup>、翌年、残りの林泉文庫を山形大学附属図書館教育学部分館、瑞龍院龍門図書館（白鷹町）、そして当館が購入した<sup>10)</sup>。それらはいずれも「書目二 市立米沢図書館寄託書目録」の中からの購入であったかと思われる。では当館の購入履歴は、『図書原簿』及び資料自体に捺された受入印

表2 当館『図書原簿』に見られる当館所蔵「林泉文庫」つづき

53	19	広益字典節用集 1冊	—	昭和32.5.25	上杉氏
54	7	学問ノス、メ 1冊	—		
55	95	孝経参釈 1冊	—		
56	64	武家學要 1冊	—		
57	73	三体詩 3冊	—		
58	33	三体詩鈔 3冊	—		
59	84	草書韻会 上下	—		
60	27	古訓古事記 上巻	—		
61	76	資治通鑑綱目 8冊	150円		
62	43	正名緒言 乾坤2冊	—		
63	5	懷中重宝記 1冊	—		
64	82	朱子詩伝膏肓 2冊	—		
65	34	改正地方大成 5冊	—		
66	15	京羽二重 6冊	800円		
67	90	唐宋詩醇 24冊	350円		
68	68	倭漢年表録	—		
69	81	朱子行状	—		
70	—	篆刻千字文 1冊	—		

※No.70は、昭和62年8月に不明となり、平成3年に除籍したとの記述あり。

にて判明し、その日付は昭和三十一年六月十八日～二十二日、二十六日及び翌年五月二十五日のものである<sup>10)</sup>。後述するが、この林泉文庫の購入は本学の開校と深く関わっており、国文学関係書を主として購入している。しかしここで注意すべき点は、当館の林泉文庫が『図書原簿』にすべて記されているわけではないことである。『図書原簿』に記される林泉文庫は【表2】の七十部である。本目録で確認している林泉文庫の総数一〇二部よりも少なく、そこに記されていない林泉文庫がどのような経緯

で受け入れられたのか不明であるが、もう一つ留意すべき点がある。『図書原簿』中に記載の「受入先」、ここは「購入先」と捉えてよいと思われるが、「上杉氏」と記されていることである。昭和十三年に上杉家から市立米沢図書館に寄託された林泉文庫は、それを昭和三十年代に各館で分割購入したため、「購入先」が「上杉氏」となっているのは当然であろうが、当館の林泉文庫整理過程において『図書原簿』がこの表記であったこと、また購入総数が不明であったことがその後の調査研究や目録作成に混同を招いたのではないかと思われるからである。では、当館における林泉文庫整理過程を見ていきたいが、現在、残念ながらその過程を知る者は少なく、まずは本学の開学から同文庫との関係について見ていきたい。

昭和二十七年（一九五二）に開学した本学は、同三十一年四月には国語科を開設、林泉文庫の購入もこの頃のことである。その背景には「米沢に伝来する貴重書を調査・研究する機関が必要」であったが、開学時には短大設置基準を満たしておらず、校舎の完成や専門図書や機械器具、専任教員の増強などを二年以内に行うことが条件として付されていた<sup>12)</sup>。附属図書館も設置最低基準の六二〇冊の図書を揃えるため、当時、間借りしていた山形県立米沢東高等学校、そして近隣の図書館である市立米沢図書館、山形県立米沢興譲館高等学校等から借用し、設置基準審査に臨んでいたという<sup>13)</sup>。そのような中で林泉文庫を上杉家から購入し、国語科における教育研究の目的で購入したため、国文学資料が多いのだと思われる。

昭和五十九年（一九八四）、本学に日本史学科が開設されたことを機に、地域史研究の一環で興譲館蔵書など「上杉家御讓本」の所在調査が行われ、その結果をまとめたものが、『上杉家御讓本』の所在調査とその史的研究』（研究代表者は東海林静男教授。以下、『報告書』）である<sup>14)</sup>。調査は昭和六十一年～六十三年にかけて行われ、その『報告書』に

は瑞龍院龍門図書館及び当館の林泉文庫の目録と解題が付されている。しかし、ここでいくつかの疑問にぶつかる。一つは、『報告書』に記されている資料目録・解題は、龍門図書館と当館の林泉文庫のものであるが、しかし『報告書』は、その研究タイトルが示すように「興譲館蔵書を主とした『御譲本』」の調査から始められ、はじめから林泉文庫の調査を行っていたわけではなく、また『書目』から分割購入した来歴を知らなかった可能性が高い<sup>15)</sup>。『報告書』の「はしがき」には、調査を進めていく上で、従来、市立米沢図書館にのみ伝来しているものと思われていた林泉文庫が、瑞龍院龍門図書館、山形大学附属図書館、山形県立米沢興譲館高等学校にも収蔵されていることを確認したという<sup>16)</sup>。その上で本調査における「上杉御譲本」とは、「戦後、昭和二九―三〇年にかけて上杉家から各所に分散移譲された、主として旧林泉文庫蔵書」を指すと述べている。さらに、当館の『図書原簿』においても「上杉氏」と購入先が記され、受入総数も不明であったことも原因の一つであったかと思われる。その証左として今回の調査でわかったのだが、『報告書』所収の「山形県米沢女子短期大学附属図書館所蔵 旧林泉文庫仮目録」(以下、「仮目録」)及び「山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵(旧伊佐早謙蔵書本)善本解題」(以下、「善本解題」)に所収されている『拾芥抄』(三巻六冊、寛永十九年版、大本)は、『書目』に記されておらず、かつ林泉文庫の蔵書印等も捺されていない。その上、京神田の古本屋である一誠堂のシールが貼られており、本学の開学当初の『図書原簿』には一誠堂からの購入履歴の記載があることから、この『拾芥抄』は林泉文庫に収蔵されていた資料ではないと判断される<sup>17)</sup>。つまり、『報告書』刊行時において、すでに当館の林泉文庫と他の古典籍類が館内で混在していたことが推察しうる<sup>18)</sup>。

また反対に『報告書』には未掲載の林泉文庫であるが、『書目』や『図書原簿』には掲載がある『山形県会史』(資料番号102)が当館に所蔵さ

れていた。これについては『書目』に掲載があること、林泉文庫を示す付箋が貼られていたこと、『図書原簿』に記されていたことにより目録に追加した。

『報告書』に記される「仮目録」には九十四部、「山形県立米沢女子短期大学蔵 旧林泉文庫書誌解題(1)(2)」(以下、「解題」)には九十六部掲載されており、その部数が合わなかったため、今回の目録作業であらためて確認した<sup>19)</sup>。さらに本学の林泉文庫は当館で所蔵されてきたが、ほかの古典籍とともに目録採取を学生とともに行なった形跡があり、その一部に請求記号が振られているが、資料番号とそれ自体の対置がなされておらず、資料の散逸が危ぶまれている。

今回、『報告書』に記載の「仮目録」及び「解題」を参照しながら、新たに資料番号を付し、中性紙の保存容器に入れ、収蔵場所を当館の書庫に移動した。

## 二、当館の林泉文庫

平成元年(一九八九)に発行された『報告書』「善本解題」において「善本」とされているのは二点であり、一つは寛永二十一年(一六四四)刊行の資料番号26『古事記』、もう一つは寛永十九年刊行の『拾芥抄』であるが、先述したようにこの資料は林泉文庫ではない。

### (一)『古事記』資料番号26

同資料には伊佐早が書いた付箋①があり、「正保元年版」と記されている<sup>20)</sup>。また下巻巻末に「寛永廿一甲申歳孟夏吉辰 観音町風月宗智刊行」とあるが、風月堂は寛永期から明治期まで京都で出版業を営んだ書肆で、宗智はその初代店主である。この『古事記』と同版本が市立米沢図書館所蔵の米沢善本一五八に収書され、「興譲館蔵書」の捺印がある<sup>21)</sup>。米沢図書館本の『古事記』は、同館の前身である財団法人米沢図書館に、

興讓館財団から明治期に寄贈を受けたものである。故に、『書目』に記載の『古事記』は、「林泉文庫」印及び「伊佐早藏書」印がある当館のものである。いずれも「寛永古事記」と呼ばれる古い版本のものである。

## (二) 琉球関係資料

伊佐早は明治二十三年（一八九〇）から上杉家史料編纂を委嘱され、自宅でもその編纂を行っていた<sup>22</sup>。その関係によるものか、「御記録所」印が捺された資料番号16『軍書秘伝集』も確認した。さらに、伊佐早は上杉家史編纂の一環で、大正十三年（一九二四）に米沢藩最後の藩主であり、第二代沖繩県令であった上杉茂憲（一八四四～一九一九）の遺蹟調査のため、沖繩へ調査に行き、資料収集に努めた。そこで伊佐早自身、関心のある漢詩文、蔡大鼎（一八二三～没年不詳）関係、林世功（一八四二～一八八〇）関係の資料も持ち帰ってきた。蔡大鼎撰『北燕游草』や『林世功遺稿』（山形大学附属図書館所蔵）、『御詩和韻集』や『香草斎詩註』（市立米沢図書館所蔵）などである。これらの資料が山形県内に所在していたことは知られていたが、平成二十五年（二〇一三）、「蔡大鼎『伊計村遊草』等調査研究事業」として、うるま市教育委員会の調査メンバーが来県し、当館の『見聞』及び『朱子記録』が琉球関係資料であることを明らかにされた<sup>23</sup>。そして翌年二月二十二日から三月九日、うるま市にて展示会「蔡大鼎がつないだ縁『伊計村遊草』との出逢いー大陸と琉球と山形・米沢とー」を開催、当館からも『見聞』、『朱子記録』の資料の貸出を行った<sup>24</sup>。

では、うるま市の調査研究の成果に学びながら、当館の琉球関係資料二点を見てみる。『見聞』の表紙には「毛慶昌」と記されるが、「毛慶昌」については不詳。本文は五点の資料「西山真先生教子齋規」、「嘉慶三年論」、「世祖章皇帝御製臥碑」（清 順治九年「一六五二」）、「紫陽朱天子白鹿洞教条」、「朱柏廬先生家訓」を抄録したものである<sup>25</sup>。

また『朱子記録』は、その表紙に「伊計記」とあり、蔡氏伊計家旧蔵であったことが知られる。この資料は、朱熹の生涯とその著作及び宋代以降の朱熹の国家祭祀について記したものである<sup>26</sup>。末尾によると「侯官後学陳功篆額、謝宗本敬書 大清道光十五年福州文光社敬勒石」とあり、福州府侯官県に建てられた碑文を抜粋したものがこの資料である。「後学」とは、南宋の慶元三年（一一九七）に同地で朱熹が講学した記録を踏まえたものである。清 嘉慶二年（一七九七）の進士である陳功が篆字で題額を書き、謝宗（のち進士に及第）が撰文し、清 道光十五年（一八三五）に刻んだものがこの碑であると考えられる。

## (三) 旧興讓館蔵書関係資料

米沢藩藩校の書庫に納められていたものには「興讓館蔵書」印が捺されている。当館の林泉文庫中には、先にみた『古事記』のほかに、資料番号48『大日本史』、資料番号77『通鑑綱目』に捺されていた。さらに伊佐早が付した貼紙「此之卷旧藩興讓館在館諸生之月に題する詩集なり 以當時之文学之盛んなるを見るべし」とある、資料番号54『月雑体詩集』は興讓館の諸生が詠んだ漢詩を収めたものである。米沢藩医の山口如是坊（立元）や神保蘭室の歌などが掲載されている。

## (四) 旧米沢蔵書等資料

資料番号23『古今類句』見返しには、伊佐早の識語「本書全四十八卷 罹元治元年四月十五日之災焼亡、今存零本巻卷而已、明治三十四年十一月廿八日 謙」があり、元治元年（一八六四）四月十五日の「小森沢火事」で焼け残った一冊であることがわかる<sup>27</sup>。同書には「林泉文庫」印のほかに「米沢蔵書」印も捺されており、米沢藩の藩庫にあったものであることがわかる<sup>28</sup>。同じく「米沢蔵書」印が捺されているものに、資料番号97『城西聯句』があった。これは五山僧の策彦周良（一五〇一～一五

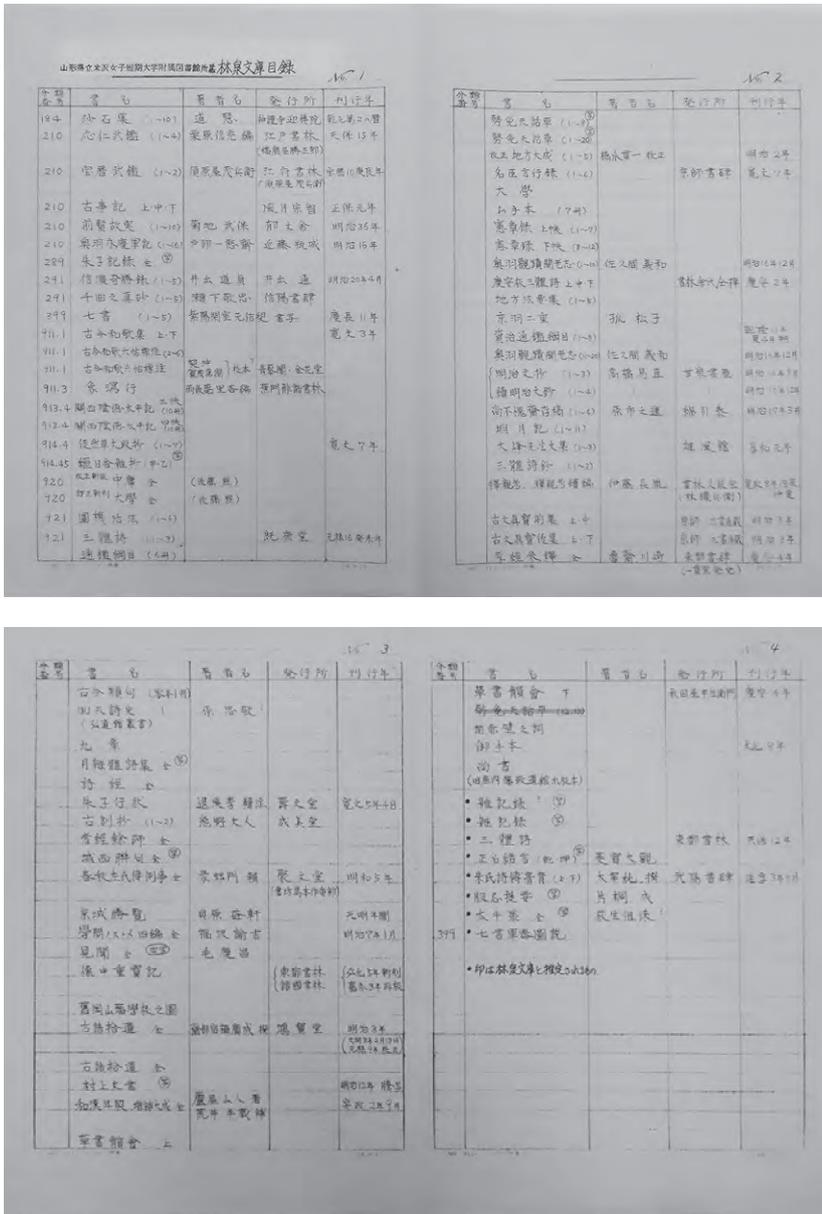
七九)の連句集で、同書は江戸時代初期の写本ではないかと推測されている<sup>80)</sup>。

資料番号60『俳諧四季部類』には、蔵書印「長」及び「米沢大町大和屋本長渡部氏蔵書」と捺されている。これは大町の豪商「大和屋」のもので、貸本屋を営んでいた同家の書物類は大正十年(一九二二)、財団法人米沢図書館(市立米沢図書館の前身)が、その子孫から購入し、現在は、同館の「興讓館本」コレクション下に所蔵されている<sup>80)</sup>。

伊佐早が特に重要であったと見做していた書物に捺されていたのではないかと思われる「伊佐早兼古書之宝」印は、資料番号48『大日本史』、資料番号65『明月記』、資料番号73『三体詩』、資料番号83『尚書』にあった。このうち『尚書』は庄内藩藩校の致道館蔵板であり、また明治初期に開業し、山形十日町で出版業を行っていた佩玉堂(荒井清作)の印章も捺されている<sup>81)</sup>。伊佐早の資料収集の経緯が窺い知れるものである。

資料番号67『和漢年契』は、中国と日本の暦年表である。資料には「窪田蔵書」印が捺されており、興讓館提学であった窪田茂遂(一八一七〜一八七七)の家に伝わる資料である。この「窪田蔵書」の多くは、市立米沢図書館の興讓館本に編入されている。

【写真2】山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵 林泉文庫目録



【凡例】  
本目録は、山形県公立大学法人附属図書館に所蔵する林泉文庫の目録である。目録を作成するにあたり、『上杉家御讓本』の所在調査とその史的研究』に掲載の、以下の三目録及び当館に残る「林泉文庫目録」【写真2】を参考に整理を行った。

・「山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵旧林泉文庫目録」  
・「山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵旧林泉文庫目録」(以下、「仮目録」)

(1)「同(2)」

(以下、「解題」)

・「山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵(旧伊佐早謙蔵書本)善本解題」

(以下、「善本解題」)

・「山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵林泉文庫目録」

(以下、「目録」「写真2」)

しかしその四目録には、資料番号が付されていなかったため、「仮目録」を基準にして、資料番号を振った。また「仮目録」に載っておらず、「解題」に掲載されていたものや、今回新たに林泉文庫としたものについては適宜、番号を付した。尚、本稿中に記したが、「善本解題」のうち『拾芥抄』は林泉文庫ではないため、本目録からは除外した。

また、資料番号29『古文真宝前集』の中巻、資料番号30『古文真宝後集』の上下巻、資料番号82『朱子詩伝膏肓』の下巻は残念ながら所在不明である<sup>22)</sup>。

一、漢字は原則として常用漢字を使用し、それ以外のものは正字に改めた。

二、判読不能や欠損しているものは、□で示した。

三、『書目』書名』には、『林泉文庫寄贈書及書目』に所載の書名を記した。

四、「著者名」について推定できるものは、「」及び( )で示した。

五、出版事項には、なるべく多くの刊記を記した。

(1) 新宮学「近代山形最初の郷土史家、伊佐早謙の仕事」(『西村山地史の研究』三六号、二〇一八年)。

(2) 市立米沢図書館編『林泉文庫目録』、一九六四年。のち、昭和五十八

年(一九八三)に改訂版が出版され、その一部をデジタル公開している(市立米沢図書館デジタルライブラリー  
<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/>)。

(3) 前掲論文(1)、新宮学「伊佐早謙撰 西方君記念碑と早期の『米琉』」(『山形大学歴史・地理・人類学論集』第十九号、二〇一八年)、石黒志保「伊佐早謙が収集した『林泉文庫』について―市立米沢図書館蔵書を中心に―」(『山形大学歴史・地理・人類学論集』第二十三号、二〇二二年)。

(4) 『蔡大鼎「伊計村遊草」等調査研究事業研究成果報告書』、沖縄県うるま市教育委員会、二〇一五年。また同調査団は、山形大学附属博物館所蔵の林泉文庫にも二十八点の沖縄・琉球関係資料があることを発見している。

(5) 田中敬「山形県の図書館」(『図書館雑誌』第一三五号、一九三一年)。同訪問記には伊佐早の書齋、つまり林泉文庫について「孔子の尊像を安置し、床の間には自筆の山水画の軸」が掛けられていたと記されている。また、伊佐早が昭和三年(一九二八)に酒田で倒れた後、半身不随の身になっても、資料の収集や山水画を描いていたと、その晩年についても詳しく記している。

この『書目』作成について、新宮氏は山形大学附属図書館所蔵本の『書目』の「大清道光二十七年歲次丁未時憲書」の項に「大日本弘化四年丁未之曆也、宣宗之代也ト先考朱書セリ」とあることからその本書に朱書されている筆跡は伊佐早謙のものであるため、この「先考」は亡父を指し、『書目』を編纂したのは息子の信氏であると推定されている(前掲論文(1))。いずれにしても、『書目』は、伊佐早遺族と米沢図書館周辺で作成されたとみてよいだろう。またその他の林泉文庫の目録として、

同書の項にある「林泉文庫書目 五冊」と、『書目』との関係については別稿としたい(一〇八頁)。

(6) 早稲田大学図書館には「書目一 上杉本邸所蔵目録」内(後述)に記される『応仁記』(請求記号リ05 12561)、『応仁記』(請求記号リ0512562)、『明德記』(請求記号へ12 05081)の所蔵があり、各資料には「林泉文庫」印、「伊佐早兼古書之宝」印のいずれかが捺されている。また同館には、『書目』に記載がない『下草』(請求記号 文庫20 00078)も所蔵されているが、「米沢蔵書」印、「伊佐早謙古書之宝」印が捺されており、林泉文庫に所蔵されていた資料ではないかと考えられる。

さらに国立国会図書館にも『書目』に記載がない書物二点を確認している(『遺徳集』四巻、請求記号831.52、『南浦文集』三巻、請求記号WA7.64)。同じく、慶應義塾大学にも『秀祐之物語』、請求記号110X@272@1)の所蔵があり、いずれも「林泉文庫」印、「伊佐早兼古書之宝」印がある。『書目』に記載がない「林泉文庫」の調査も、それがいかなる経緯で収蔵されたのか、検討を要する。

(7) 『米沢藩興讓館書目集成 第四巻 林泉文庫書目解題・解説』(岩本篤志編、ゆまに書房、二〇〇九年)。

市立米沢図書館の『書目』二冊にはそれぞれ番号印「16番」と「17番」が付けられ、事務室用として①などのチェック印が書き込まれているのが「17番」の『書目』で、同書に写真版が掲載されたものである。この番号は、『米沢善本の研究と解題』(内田智雄編、ハーバード・燕京・同志社東方文化講座委員会、一九五八年)刊行後に、同館の専門職員用に付けられた整理番号である(岩本篤志「米沢藩と藩校興讓館の蔵書目録について」『林泉文庫書目解題・解説』所収、五六〇頁)。

また、山形大学附属図書館の『書目』には、「教」印が付けられており、同大学の附属図書館教育学部分館で、昭和三十一年(一九五五)に

購入した時の確認印である。

(8) 市立米沢図書館編『市立米沢図書館架蔵 マイクロフィルム版 上杉文庫目録』、一九六九年。この序において、上杉文庫中の林泉文庫は若干あると認識されていたが、青木昭博氏によってかなり多くの林泉文庫が上杉文庫中に所収されていることが判明している。尚、昭和二十九年(一九五四)、林泉文庫と同時期に市立米沢図書館で購入した「上杉文書」は、平成十一年(一九九九)、米沢市上杉博物館の開館時に、同館へ移管された。

また、【写真1】のラベルであるが、上杉文書に収められている林泉文庫のいくつかの資料には、「図」の部分が「本」となっており、これは『書目』中の「書目一 上杉家本邸所蔵目録」を指しているのだと思われる。以上のことから『書目』及びラベル、付箋②は、同館において整理したときに設けられたものと推定される。

(9) 青木昭博「解説 市立米沢図書館の蔵書と現在の興讓館本」、前掲書(7)、五七五頁)。さらに昭和三十一年には市立米沢図書館が「林泉文庫より追加分」として約一二〇点購入、同館の「林泉文庫」は現在、七三四部一八〇五冊を数える。ただし、現在、別コレクションで分類されているものもあり、検討を要する。

(10) 山形大学附属図書館は昭和三十一年三月二十二日から十一月十八日の期間、六度に分けて購入、また瑞龍院龍門図書館も同年に購入している(『林泉文庫の世界展―伊佐早謙がつないだ沖繩と米沢』、市立米沢図書館・山形大学附属博物館編、二〇二二年、一八頁)。

(11) 資料自体に捺されている日付印と、『図書原簿』【表2】に記入されている日付が異なる。資料自体に捺されている日付で一番早いものが昭和三十一年六月十八日である。

(12) 『山形県立米沢女子短期大学創立五十周年記念誌』、米沢女子短期大

学創立五十周年記念事業実行委員会五十周年記念誌発行部会編、二〇〇三年、一九頁。

(13) 前掲書(12)、八四頁。

(14) 『上杉家御讓本』の所在調査とその史的研究』(昭和六一〜六三年度科学研究費補助金研究成果報告書、一九八九年、研究代表者 東海林静男)。

(15) 『報告書』に先んじて『米沢史学』創刊号には、「興讓館・伊佐早・酒井家所蔵目録」(瑞龍院龍門図書館所蔵)が収められている(奥野中彦編、一九八五年)。このことは、この科研費の調査自体が瑞龍院龍門図書館所蔵の「上杉家御讓本」の調査から始まっていることを示している。

(16) なお『報告書』には、山形県立米沢興讓館高等学校にも「林泉文庫」の一部が未整理で所蔵されている可能性が示唆されているが、昭和六〇年代の調査段階で確認できなかったとある。

(17) 『報告書』所収の「善本解題」(奥野中彦編)には、「伊佐早謙蔵書本」として採取されているが、どのような経緯で奥野氏が林泉文庫と判断されたのか、不明である。

(18) 当館には手書きのリスト「山形県立米沢女子短期大学附属図書館所蔵 林泉文庫目録」【写真2】が残っているが、作成年月日が記されておらず、『報告書』刊行前に作成されたものなのか、判断がつかない。また、このリストには七十三部のタイトルが記載されているが、そのうち左記資料は「林泉文庫と推定されるもの」として記されている。

雑記録 ? 写 (資料番号 101)

雑記録 写 (資料番号 100)

三体詩 (資料番号 75)

正名緒言(乾・坤)写 (資料番号 43)

朱子詩伝膏肓 (資料番号 82)

服忌提要 写 (資料番号 61)

太平策 全 写 (資料番号 50)

七書軍器図説 (資料番号 79)

いずれも『書目』に掲載されている林泉文庫であるが、このリスト作成時にも受入過程が不明瞭であったため、「推定」としたのであろう。いずれにしても、当館が林泉文庫と認識したのは、東海林静男氏らの調査後、そして近年の調査結果を踏まえてのことである。

(19) 『報告書』所収の「仮目録」「善本解題」からは、『拾芥抄』を林泉文庫から除外した。また、「解題」には資料番号35『地方法要集』がなかった。「目録」には、七十三部掲載されていたが、このうち『旧岡山藩学校之図』は林泉文庫ではないため除外し、七十二部を林泉文庫として確認した。

(20) 寛永二十一年十二月十六日、正保元年に改元。

(21) 『古事記』三卷三冊(市立米沢図書館所蔵 米沢善本一五八)

市立米沢図書館デジタルライブラリー

<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/AA158.html>

米沢善本とは昭和三十三年(一九五八)、ハーバード燕京同志社東文化講座委員会のメンバーが市立米沢図書館に来訪し、同館のなかで特に善本とされた漢籍一四六部、和書六十二部に解題が付された。その後、同市ではその二〇八部の善本を「米沢善本」としてコレクション化し、ほかの資料を「興讓館本」として整理している(前掲(7)青木論文、五六七〜五六八頁、内田智雄「ハーバード・燕京・同志社 東方文化講座シリーズの終刊に際して」『東洋史研究』一九一、一九六〇年)。

(22) 編纂の成果としては、「上杉家家記」(上杉文書四三〜四四)

『米沢藩衰弊録―一名・森平右衛門誅戮記』（米沢活版凹洲舎、一八九〇年）

『戊辰紀事』（市立米沢図書館所蔵）

『奥羽同盟始末』（山形活版社、一九〇八年）

『新編最上義光事歴』（山形大学附属図書館所蔵）

などがある（山形県立図書館編『故伊佐早謙先生閱歴』、一九三〇年）。

(23) 榮野川敦、勝連晶子「戦前に流出した琉球・沖縄関係資料について」、前掲書(4)所収。

(24) 『朱子記録』は、『蔡大鼎関連資料集5』（うるま市立図書館市史編さん係編、うるま市教育委員会、二〇一五年）において、すべて写真掲載されている。

(25) うるま市立中央図書館市史編さん室編『うるま漢詩ロード散策』No.3、二〇一四年、十三頁。

(26) 前掲書(25)、六頁。

(27) 『米沢市史』第三卷、近世編2、米沢市史編さん委員会、一九九三年、四五〇～四五二頁。

「小森沢火事」とは、西割出町（現松が岬三丁目）にあった小森沢仁右衛門の邸宅より出火し、城下の町人街や興讓館、武芸所、町奉行所また米沢城二の丸にも火は移り、北矢倉門、昌寿院御住居、御厩、御作事屋なども焼失した火事である。その火事で侍屋敷三六〇軒、寺院十四堂、町屋敷六二〇軒が焼失し、その前年に起きた三月の「西屋火事」と四月の「米屋家事」に続く火災に、藩は救済米や材木の支給を行い、その対応に追われた。

(28) 森鹿三「米沢藩学とその図書の歴史」（前掲書(7)『米沢善本の研究と解題』所収）。

(29) 佐々木紀一談「江戸初期の「城西聯句」写本」（『山形新聞』一九九

九年八月十日）。

(30) 前掲(7)青木論文、五七四頁。

(31) 『山形県印刷文化史』、山形県印刷協同組合、一九七一年、一三四頁。山形県内の地域史出版の契機となった『編年西村山郡史』（山形県西村山郡編、一九一五年）の印刷は、山形市旅籠町の印刷所である熊谷活版所（熊谷末蔵）が行っている。この印刷所は、大正九年（一九二〇）にかけて刊行された『山形県史』四巻の印刷も行っており、郷土史家伊佐早の活動面を知る上でも、この山形市内の印刷所との関係は重要な視点であると思われる。今後、検討したい。

(32) 『古文真宝前集』中巻、『古文真宝後集』上下巻の三冊は、『図書原簿』によれば、昭和六十二年（一九八七）八月の蔵書点検時にすでに不明になっている。また、『篆刻千字文』【表2】も同様に所在不明である。

本目録作成にあたり、新宮学氏（山形大学名誉教授）、小林文雄氏（米沢女子短期大学日本史学科教授）、佐藤琴氏（山形大学附属博物館）にご助言を賜った。この場をお借りして、謝辞申し上げます。

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
元禄九子曆武蔵於品川書之 弥生三日 七十五才以則	元禄9年	1696	写本	11.7×9.1	1冊		イ図	国史 和文 元禄九年写	一 いさよひの日記
[奥書]右以陸中磐井郡望小野寺氏蔵書為 原本校之、以塙氏温故堂本小野寺本大槻 修二氏帰省之次所齎而貸也、明治十七年 七月 近藤瓶城識/明治十六年十月十九 日出版御届 著者故人 戸部一齋齋 出 版人 東京府平民 近藤瓶城 深川区富 岡門前町七十番地	明治16年	1883	刊本	18.5×12.4	39巻16冊	林泉文庫	ア図	二一三	
[序]明治十六年九月 松平正直撰并書 /[序]享保四年己酉孟秋星会日五城楼下 微臣容軒源義和序于家塾猷翠亭/[奥書] 明治十六年九月四日御届 同年十二月二 十日刻成 宮城県蔵版	明治16年	1883	刊本	20.2×13.7	20巻20冊	林泉文庫/宮城 県蔵版印/蒼龍 骨	ア図		
[内題]天保新刻 東都芝甘泉堂梓/[奥付] 東都書肆 芝明神前三嵩町 甘泉堂 和 泉屋市兵衛版	天保期		刊本	14.0×9.0	1冊		ヲ図		女用消息往来一
[奥書]弘化五年戊申正月新刻 嘉永三年 庚戌秋再板 東都書林 下谷池之端茅町 大城屋良助撰ほか 諸国書林 信州松本 本町 高見基左工門ほか 売弘所 甲府 八日町一丁目 二文字屋藤右工門/[奥 書]本家弘所 書林 岡村屋庄助	嘉永3年	1850	刊本	15.0×5.7	1帖	林泉文庫	ク図		
[内題]製本所 柳枝所 文淵堂 文敬堂 /[跋]安政丙辰夏五月 晩生 原忠敬 /[奥書]発兌書肆 京都六角通寺町西江 入 小川太左衛門 大坂心齋橋通南本町 敦賀屋為七 同心齋橋通本町 敦賀屋嘉 蔵	安政3年	1856	刊本	17.9×12.4	上下巻1冊	林泉文庫/斎藤 蔵書/弘府蔵版	コ図		
明治七年一月出版	明治7年	1874	刊本	18.4×12.8	1巻1冊	林泉文庫/福沢 □□版印	カ図		
右王父定乗君形見として書遺し給るもの 也 文化五年の夏 親純/[奥書]右松木 文雅曾堂兄手書所以奉東園賢公之一冊予 恭写之 皆文政四年麻山邸舎 小見親純	文化5年/文政4 年	1808/ 1821	写本	29.2×18.4	1冊				
[序]正徳三年十一月廿九日 鳩巢室直清 /[跋]辛卯仲冬上浣 朝鮮国製述官安岳 □人李環重叔東郭書	正徳3年	1713	刊本	27.6×17.6	3巻1冊	林泉文庫	シ図		
[大尾]正徳二壬辰年五月吉日 洛陽有春 軒梓/[跋]正徳二年歳壬辰夏五月朔旦京 雜梅月堂下門人梅仙堂景真守植謹跋	正徳2年	1712	刊本	25.5×18.9	81巻（ただし41- 81巻のみ）20冊	林泉文庫			
[自序]寛政九後の文月半頃院の裳打かけ 雨後の幣廬を出ぬ 雨後庵里杏/[跋]清 嘯亭錦露（石口錦露）撰/[奥書]蕉門俳 諧書林 京油小路松原上ル町 津田伝蔵 梓行	寛政9年	1797	刊本	22.8×16.2	1冊	林泉文庫	キ図		
			写本	24.2×16.5	1冊	林泉文庫	キ図		
			写本	24.0×16.3	1冊	林泉文庫	キ図		
[題箋]天明再板/[内題]書舖 萃菴舎蔵版 /[序]宝永三年立春日 貝原篤信記	天明期		刊本	18.6×12.8	1冊	林泉文庫	キ図	[ ]地理 一 天明年間版	
[奥書]貞享二乙丑歳九月吉日 白山通三 条上ル町 小嶋弥三右衛門 錦小路室町 東へ入町 小嶋伝右衛門 開板	貞享2年	1685	刊本	10.8×16.4	6巻6冊	林泉文庫	キ図		

山形県公立大学法人附属図書館 林泉文庫目録

資料番号	資料名(書名)	『書目』書名	外題(題箋)	内題	柱題	編著者
1	いさよひの日記	いさよひの日記	いさよひの日記	いさよひ乃日記		[阿仏尼]著
2	史籍集覧 奥羽永慶軍記	奥羽永慶軍記 史籍集覧本	史籍集覧 奥羽永慶軍記	奥羽永慶軍記	史籍集覧 奥羽永慶軍記 観奕堂版	戸部一慈斎(正直)著
3	奥羽親蹟聞老志	奥羽親蹟聞老志 佐久間義和 明治十六年刊 小本	奥羽親蹟聞老志			佐久間義和(洞巖)著
4	女用消息往来	女用消息往来 天保版	女用消息往来	天保新刻 女用消息往来	女消息	
5	懐中重宝記	懐中重宝記 小型	懐中重宝記			
6	弘道館叢書 回天詩史	弘道館叢書 回天詩史	弘道館叢書 回天詩史	弘道館叢書 回天詩史 全二冊	回天詩史	水戸藤田彬斌郷題并録 (東湖/斌郷)
7	学問ノス、メ	学問ノス、メ四編	福沢諭吉著 学問ノス、メ 四編 全	学問ノス、メ四編	学問ノス、メ四編	福沢諭吉著
8	学問大意ほか	小見親純写学問大意其他		学問大意 治憲公より 縫殿勝興君江御教示被 進し写/字の勢分事/筆 遺肝要たる事/唐陸宣 公奉議 二篇		小見親純写
9	鶴楼先生遺編	詩経カ	詩経 全	鶴楼詩稿/鶴楼先生遺 編	鶴楼遺編	東都 高惟馨子式(高野 惟馨)輯 烏山 山保定 子固 大基房子邦校
10	陰徳太平記	関西陰徳太平記	関西陰徳太平記	陰徳太平記	陰徳太平記	
11	象潟行	象潟行	きさかた行 全	出羽米沢 象潟行		雨後庵里杏(九里三郎兵 衛)編
12	九章	九章(算法書)	九章	九章		
13	求積還源	求積還源	求積還源 全	求積還源		[菅野元健]著
14	京城勝覧	京城勝覧	天明再板 京城勝覧	益軒貝原先生著述 京 城勝覧	京城勝覧/京覧	貝原益軒著
15	京羽二重	京羽二重	京羽二重	京羽二重		[水雲堂]狐松子(小嶋徳右 衛門)

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
			写本	14.1×21.5	1巻1冊	御記録所	ク図		
	寛保4年	1744	写本	23.4×16.1	甲乙巻2冊	林泉文庫	ケ図	国史随筆 共二 写本	林 継日舎雑抄 写 二冊/継日舎雑抄
			写本	23.1×13.5	1冊	林泉文庫	ケ図		林 見聞 古写本 一冊
[序]寛延庚午之穉 大江処士木凡鳥/[奥書]高田政度選 文化十四丁丑年再刻 大阪書林 心斎橋南四丁目 吉文字屋市 右衛門 同 讃岐屋町西横堀西入 檜皮 屋善七/[奥書]文化十四丁丑五月 大 阪書林 讃岐屋町西横堀西江入 檜皮屋 善七	文化14年	1817	刊本	7.1×16.1	1冊	長尾蔵書	セ図/口五一		
[内題]岐阜成美堂/[序]天明改元之歳辛丑 秋九月 門人 南紀和浦野文翼叔鳳父 撰/天明改元之九月十日紀熊野人祝部 確磐云/[附言]熊野崖弘毅識	天明元年	1781	刊本	26.2×18.0	4巻2冊	林泉文庫/大口 桐口/百拙眼福	コ図		林 古訓抄 二
[巻末]大同二年二月十三日/嘉禄元年二 月廿三日 以左京大夫長倫朝臣本書写畢 /嘉元四年八月廿一日 取目錄訖 〇九 此書朝夕所練習也 祠部員外郎ト兼夏/ 延久元年申歳四月十七日修補之雖片時不 可出他処、仍余本一両所令用意者也、神 祇大副ト部兼夏 文明元年六月廿七日 一見畢 正四位上行神祇權大副兼侍從ト 部朝臣兼俱			刊本	26.8×18.8	1巻1冊	林泉文庫	コ図		林 古語拾遺 全一 冊
[内題]大同三年二月十三日 元禄九年校 正 鴻宝堂/[跋]大同二年二月十三日 明治第三臘月 汲古散人/[奥付]和漢様 書籍并二法帖類売賣 製本所 西京寺町 通綾小路下ル町 川勝徳次郎	明治3年	1871	刊本	24.9×17.7	1巻1冊	林泉文庫	コ図	国史 全一 明 治三年版	林 古語拾遺 一冊/ 古語拾遺
			刊本	23.8×16.2	1冊（巻首のみ）	林泉文庫/米沢 蔵書	コ図	国史 和歌 存 一 刊本	林 古今類句 零本 一冊/古今類句
[巻末]寛文三稔癸卯初冬吉日 新板	寛文3年	1663	刊本	26.8×19.4	上下巻2冊	林泉文庫/伊佐 早蔵書		国史 和歌 共 二 明文三年版	林 古今和歌集 二 冊
[内題]東都書肆 青藜閣 金花堂発兌 /[序]天保十とせ余り一とせといけとし の八月吉日もりの日になむ	天保11年	1840	刊本	26.5×18.5	6巻6冊	林泉文庫	コ図	国史 和歌 共 六 刊本	林 古今和歌六帖標 註 六冊/古今和歌六 帖標註
[序]和銅五年正月廿八日正五位上勲等太 朝臣安万侶/[奥書]寛永廿一甲申歳孟夏 吉辰 観音町風月宗智刊行	寛永21年	1644	刊本	27.2×18.3	上中下巻3冊	林泉文庫/伊佐 早蔵書/離山麓 小宮山氏蔵書	コ図	国史 和歌 共 三 正保元年版	林 古事記 三冊/古 事記
			刊本	25.1×17.9	上下巻（ただし上 巻のみ）1冊		コ図		
[内題]明治十八年四月 宮内省蔵版/[序] 明治十五年紀元節 宮内卿正二位徳大寺 実則撰/[巻末]明治十七年秋日 山田安 栄/[奥書]明治十八年四月二十日出版届 宮内省蔵版	明治18年	1885	刊本	23.6×14.4	4冊	羽前 米沢市 林泉寺町 伊佐 早謙	コ図		
[内題]明治三庚午歳晚[ ] 京師 三書房蔵	明治3年	1870	刊本	13.0×9.3	上中下巻（ただし 上巻のみ）1冊	林泉文庫/齋藤 蔵書	コ図		

資料番号	資料名(書名)	『書目』書名	外題(題箋)	内題	柱題	編著者
16	軍書秘伝集	軍書秘伝集	口書秘伝集	軍書秘伝集		
17	継日舎雑抄	継日舎雑抄	継日舎雑抄 甲 乙			
18	見聞	見聞	見聞 全			
19	広益字典節用集	広益字典節用集		広益字典節用集		高田政度選
20	古訓抄	古訓抄	古訓抄	日本記歌注解 古訓抄 / 估量波及		熊野大人(弘毅) 著
21	古語拾遺	古語拾遺 版本	古語拾遺 全	古語拾遺	古語拾遺	齋部宿禰広成撰
22	古語拾遺	古語拾遺 齋部宿禰広成 明 治三年版	古語拾遺 全	校正 古語拾遺 全	古語拾遺	從五位下齋部宿禰広成撰
23	古今類句	古今類句	古今類句	古今類句		
24	古今和歌集	古今和歌集	新口古今和歌集	古今和歌集		
25	古今和歌六帖標注	古今和歌六帖標注	古今和歌六帖標注	古今和歌六帖標注		契沖阿闍梨 賀茂真淵翁 校本 平由豆流大人校定 山本明清大人校注
26	古事記	古事記 正保元年版	古事紀	古事記	古事記	
27	古訓古事記	訂正古訓古事記	訂正古訓古事記	新刻古事記	古事記	
28	屨蹕日乘	屨蹕日乘	屨蹕日乘	屨蹕日乘 全四冊	屨蹕日乘	正七位兒玉源之丞著
29	古文真宝前集	古文真宝 明治三年刊	古文前集	古文真宝前集	古文前集	
30	古文真宝後集	* 所在不明				

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
			写本	①16.0×20.5 ②19.6×14.5	2冊（1冊合本）	松口	コ図		
[内題]瑞錦堂蔵版/[茶礼口訣序]元禄十二年清明日 貝原篤信書/[食礼口訣序]元禄丁卯上巳日	元禄12年	1699	刊本	11.1×15.7	1冊（ただし食礼、茶礼のみ）		サ図		三礼口訣
	寛永版カ		刊本	27.0×19.1	3巻3冊	林泉文庫	サ図		
[内題]明治二年己巳七月 東京 清華園蔵版/[凡例]明治二己巳歳晩冬 橋爪貫一再誌/[巻末]明治二年己巳七月 官許橋爪貫一校正 松井次郎蔵版 東京発兌製本書屋 大和屋喜兵衛 相模屋七兵衛/[奥付]官許明治二年己巳七月 東京 橋爪貫一校正 松井次郎蔵版	明治2年	1869	刊本	18.3×12.3	5冊	林泉文庫	チ図	国史 律制 共五 明治二年版	林 地方大成 五冊/ 地方大成
			写本	27.0×18.8	10巻5冊	林泉文庫/伊佐早蔵書	チ図	国史 律制 共五 写本	林 地方要集 写五冊
[内題]樞松亭蔵版/[序]明治廿年三月十三日 鶯花園の南口りしるす 従三位勲二等福羽美静/丁亥孟春上澣 亀崖恒/[凡例]天保五年のとし二月 信濃の国佐久の郡白田の逸老井出貞翁しるす/[奥付]明治二十年三月九日 版權免許 同年四月出版 著述者 故人 井出道貞 出版人及校正書画 長野県平民 孫通 南佐久郡白田村五十四番地/彫工 東京四ツ谷 大沢鏡三郎/三府書梓 東京通一丁目 北畠茂兵衛ほか	明治20年	1887	刊本	25.4×17.8	5巻5冊	林泉文庫	シ図		林 信濃奇勝録 五冊
[序]享保歳次乙卯秋七月 信州上田鎮安原貞平伯亨甫 筆子東都昌平橋邸/[奥書]古義堂蔵板 元文元年丙辰仲夏原刻 寛政八年丙辰仲夏再刻/平安 書林文泉堂 林権兵衛発行	寛政8年	1796	刊本	26.0×17.2	2冊	林泉文庫/林内蔵書	シ図	[ ]二 寛政八年版	林 釈親考 二冊/釈親考
[序]于時弘安第二之暦、三伏之夏之天集之林下貧士無住/[跋]這因集依旧刻点画 湮没也 故令校正之而新開板者也 正保四曆仲冬吉日 室町通鯉山町 小嶋弥左衛門開之	正保4年	1647	刊本	26.8×18.0	10巻10冊	林泉文庫	シ図		林 沙石集 十冊
[奥付]明治三十六年十二月一日印刷 明治三十六年十二月五日発行 著作者兼発行者 細川潤次郎 神田区駿河台北甲賀町一番地 印刷者 野村宗十郎 東京市京橋区築地三丁目十五番地 印刷所 株式会社東京築地活版製造所 東京市京橋区築地二丁目十七番地 発行所 求林堂商店 東京市京橋区築地二丁目六番地	明治36年	1903	刊本	23.1×15.0	上（巻九・十）下（巻十一・十二） 巻2冊		シ図		
[内題]備前藩 湯浅先生編輯 内外兵事新聞局蔵版/[序]明和丁亥九月甲子 龜山松峯惟時撰/元文四年己未五月九日 湯元禎/[巻廿五跋]明和庚寅冬 赤穂赤松勲謹跋/[奥付]明治十二年一月二十七日出版/出版所 東京元数寄屋町貳丁目六番地 内外兵事新聞局 発兌書肆 東京日本橋通二丁目 稲田佐兵衛 同 小林新兵衛ほか	明治12年	1879	刊本	27.0×15.2	30巻15冊				林 常山紀談 十五冊

資料番号	資料名(書名)	『書目』書名	外題(題箋)	内題	柱題	編著者
31	古末左良比	こまさらひ等(俳書)/古末左良比(雑事)/古末左良比				
32	三礼口訣	三礼口訣 食茶書	三礼口訣	三礼口訣 食礼 茶礼 書礼		貝原篤信(益軒)著
33	三体詩鈔	三体詩鈔	三体詩鈔	三体詩絶句鈔	三体詩鈔/三体絶句鈔	[塩瀬宗和]著
34	改正地方大成	地方大成	改正地方大成	改正地方大成	改正地方大成	橋爪貫一校正
35	地方法要集	地方法要集	地方法要集	地方法要法		
36	信濃奇勝録	信濃奇勝録	信濃奇勝録 井出道貞著述	信濃奇勝録		井出道貞著述 井出通校正
37	积親考	积親考	积親考 再刻	刊积親考/积親考続編	积親考 槌槌齋集	平安 伊藤長胤(東涯)著 門人 安原貞平校
38	沙石集	沙石集(仏書)	沙石集	沙石集	沙石集	無住著
39	十洲詩鈔	十洲詩鈔	十洲詩鈔	十洲詩鈔	十洲詩鈔 吾園蔵版	細川潤潤叟(潤次郎)著
40	常山紀談	常山紀談	常山紀談	常山紀談 正編廿五卷 拾遺四卷 内外		備前藩 湯浅先生(元禎/ 常山)編輯

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
[内題]梅口邸蔵版/[序]明治甲申孟春薩摩 重野安釋撰/明治癸未十二月 仙台 岡千因撰/[例言]明治十五年壬午如月 東海 綿引泰識/[卷末]水戸 草川重遠子道書/明治十七年二月上流 於東京寓館宅広居士安達清風撰 尋友 山大淵書/[奥付]明治十七年二月廿一日版權免許 同年三月十五日刻成出版/著者 故人 原市之進 著者相続人茨城県土族原貞後見 茨城県土族 原百之 県下東茨城郡水戸上市柵町番外五番地 編輯兼出版人 茨城県土族 綿引泰 東京小白川區金富町五十三番地 製本並発売人 東京府平民 吉川半七 東京京橋區南伝馬町巷丁目十二番地	明治17年	1884		23.6×14.0	4巻4冊	林泉文庫		国史 詩集 共四 明治十七年版	林 尚不愧齋存稿 四冊
			写本	23.4×16.5	1冊	伊佐早謙字君益之印 / 画中行口	シ図	国史 雑史 一 写本	林 正保筆記 写一冊/正保筆記/正保筆記 一
[序]天明己酉春三月 社友尾藤肇撰/天明戊申冬十一月 菱竇識 [乾卷末]門人 佐倉 向之益謙郷 今井謙方子員 吉見頼寛伯恭同校/[坤卷末]門人 大坂 金谷興詩立礼 佐倉 中條直養浩然 出野清道元垣同校	天明9年	1789	刊本	26.2×17.5	乾坤巻2冊	伊佐早蔵書/柳塘蔵書	シ図	国史儒家 共二 文化十四年写本	林 正名緒言 写二冊/正名緒言
[内題]轟門先生輯 翻刻必究 皇都書肆聚文堂發行/[叙]戊子夏六月既望 平安 皆川愿題/[卷末]明和戊子夏六月 乙葉文卿識/[奥付]此君齋蔵/明和五年戊子九月吉日 平安城柳馬場二條下町 書坊島本作重郎發行	明和5年	1768	刊本	15.7×11.3	上下巻1冊	林泉文庫/此君齋	サ図		
			写本	24.7×16.1	20巻8冊	林泉文庫			林 勢免天話草 写八冊
			写本	23.7×16.7	20巻8冊	林泉文庫/口			林 勢免てわ草 写八冊/勢[ ]
[序]天保丙申陽月 高崎 松田順之撰 伊東亨謹書/天保七年歳次丙申春三月 菊池武保自序/[凡例]武保識/[奥書]明治三十六年七月八日翻刻印刷 明治三十六年七月十三日翻刻發行 輯画者 故菊地武保 翻刻發行兼印刷者 東京市京橋區柳町五番地 桜井庄吉/発売所 東京市京橋區柳町五番地 都文舎ほか	明治36年	1903	写本	23.0×15.3	10巻10冊	林泉文庫			林 前賢故実 十冊
[叙]正徳五年乙未十一月 権中納言從三位源綱條謹序			刊本	28.6×17.3	243巻100冊	伊佐早兼古書之宝/興讓館蔵書	タ図	写本	林 大日本史 写百冊
[卷末]元禄拾壹年戊寅正月十一日 洛陽書林等開板	元禄11年	1698	刊本	13.6×19.6	40巻10冊	羽州 米沢 十文字屋 竹森/羽前 米沢市 林泉寺町 伊佐早謙	タ		林 太平記 十冊
			写本	27.4×18.3	1冊	伊佐早謙字君益之印 / □□□	タ図	国史 儒家 一 写本	林 太平策 写一冊
[内題]雄風館蔵 關墨房 東都書肆 鳳凰閣製本/[序]享和三年春正月 門人 土屋世範謹題/享和壬戌七月 兩都 宮社 獻謹題/享和壬戌仲秋 高須邸 岡崎濟謹選/[跋]享和三年春正月 男 冨田簡敬題	享和3年	1803	刊本	26.6×17.4	6巻3冊	伊佐早蔵書/林泉文庫/丸朱印	タ図	国史 詩集 共三 享和元年版	林 大峰先生文集 三冊/大峰先生文集

資料番号	資料名（書名）	『書目』書名	外題（題箋）	内題	柱題	編著者
41	尚不愧齋存稿	尚不愧齋存稿	尚不愧存稿	尚不愧齋存稿	尚不愧齋存稿	水戸 原忠成仲寧著 門人 綿引泰天編次
42	正保筆記	正保筆記	正保筆記 全			
43	正名緒言	正名緒言	正名緒言	正名緒言		岡山 菱賀大觀著
44	春秋左氏伝例事	春秋カ	春秋左氏伝例事 全	春秋左伝例事	例事	西播 乙葉文卿輯
45	勢免天話草	勢免天話草	勢免天話草	勢免天話草		[洪井徳草]等編
46	勢免天話草	勢免天話草	勢免天話草	勢免天話草		[洪井徳草]等編
47	前賢故実	前賢故実	前賢故実	前賢故実	前賢故実	菊地（池）武保著
48	大日本史	大日本史	大日本史	修大日本史		権中納言從三位源光圀修男権中納言從三位綱條校
49	太平記	太平記	太平記	太平記	太平記	
50	太平策	太平策	太平策 全	太平策		荻生徂徠述
51	大峰先生文集	大峰先生文集	大峰先生文集	雄風館蔵 大峰先生文集	大峰文集 環堵室	男 冢田簡編 門人 土屋世範 岡崎貞濟同校

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
[内題]信陽書肆 松葉軒蔵版/[凡例]宝暦三歳次癸酉春三月佐久郡伴野狂野沢郷市隠於鶴巢南軒編述之/[跋]明治二十六年八月二十日印刷 同年同月二十八日発行 著者 故瀬下敬忠 発行者 長野県上水内郡長野町三千二十七番地 西沢喜太郎 印刷者 京橋区弓町十三番地 松本義保 売別所 長野大門町 松葉軒西沢書店ほか	明治26年	1893	写本	22.5×15.0	10巻5冊	林泉文庫	子図		
大正二年癸丑十二月於弘前市購得 読史堂主人謙			写本	23.1×16.4	6,附巻7冊	羽前 米沢市 林泉寺/□/兼 印町 伊佐早謙	ツ図		林 津軽一統志 写七冊
			写本	30.2×19.5	1冊	林泉文庫/村山蔵書	ケ図	此之巻旧藩興談館在館諸生之月に題する詩集なり 以当時之文学之盛んなるを見るべし	林 ケ9 月雑体詩集 写 一冊
[巻末]皇都書肆 吉田四郎右衛門 阿南四郎右衛門 田中庄兵衛 谷口七左衛門			刊本	26.5×19.3	5冊	伊佐早蔵書	ツ図	国史 和文 共五 刊本	林 徒然草集説 五冊/徒然草集説
[巻末]寛文七年十二月吉日 板行	寛文7年	1667	刊本	27.5×19.6	7巻7冊	林泉文庫	ツ図	国史 和文 共七 寛文七年版	林 徒然草文段抄七冊/徒然草文段抄
	文化8年	1811	写本	29.0×18.5	1冊	林泉文庫	手本図		林 御手本 八冊
嘉永五子年七月 三冊之内 齋藤幾蔵/ 文化七年十二月 齊藤文治	嘉永5年/文化7年	1852/ 1810	写本	30.8×20.5	7冊	林泉文庫		二〇	
[内題]明和巳丑新刻嵩山房梓/[序]濟南李攀龍撰/[附言]服元喬/[奥書]明和六巳丑年春正月日新刻出来 大坂 書肆 定栄堂 吉文字屋ほか	明和6年	1769	刊本	16.0×11.2	7巻1冊	□□蔵書	タ図		唐詩選 一冊
			刊本	13.4×9.1	1冊	印「長」 米沢 大町大和屋本長 渡部氏蔵書	ハ図		
[序]文政乙酉二月初吉 米沢片桐成撰 /[後序]天保癸巳冬十一月下流米沢記室 片桐成一床書室中	天保4年	1833	写本	26.7×19.0	1冊	毛利蔵書/片桐成印/□君美	フ図		フ6 林 服忌提要片桐成著 写 一冊
[奥書]天保四癸巳年 江府書林 千鍾房 日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛蔵版	天保4年	1833	刊本	15.9×11.4	3巻3冊		フ図		林 天保武鑑 三冊
[奥書]宝暦十庚辰年新改正 江府書林 日本橋南一丁目 須原屋茂兵衛蔵版	宝暦10年	1760	刊本	16.0×11.3	3巻（ただし2、3巻のみ）2冊	林泉文庫	フ図		
			刊本	7.4×15.3	1冊		フ図		
			写本	27.2×19.9	11冊	芸叢之印/林泉文庫/伊佐早兼古書之宝	メ図	別本明月記 共十一冊	林 別本明月記 写十一冊/別本明月記 十一冊
[巻末]明治十二年七月 以徳川昭武彰考館蔵本謄写	明治12年	1879	写本	25.7×18.0	1冊	林泉文庫	ム図		林 村上文書 写一冊

資料番号	資料名(書名)	『書目』書名	外題(題箋)	内題	柱題	編著者
52	千曲之真砂	千曲之真砂	千曲之真砂	千曲之真砂	千曲之真砂	瀬下敬忠著
53	津軽一統志	津軽一統史	津軽一統志 全七	津軽一統志		相坂兵右衛門源則武 伊藤八右衛門藤原祐則編輯 桜庭半兵衛 藤原正盈校正
54	月雑体詩集	月雑体詩集	月雑体詩集 全			
55	徒然草集説	徒然草集説	徒然草集説		徒然草集説	隠者晃舟子閑寿
56	徒然草文段抄	徒然草文段抄	徒然草文段抄	徒然草文段抄	文段	[北村季吟]著
57	御手本	文化八年未四月吉日御手本 米沢大町齊藤文治卜裏書アリ	御手本 文化八年未四月吉日			
58	お手本		お手本			
59	唐詩選	唐詩選	唐詩選	李于鱗唐詩選		濟南李攀龍編選
60	俳諧四季部類	俳諧四季部類	俳諧 四季部類 全	俳諧四季部類		二柳庵 半化房校閲
61	服忌提要	服忌提要	服忌提要	服忌提要		米沢 片桐成君美著
62	天保武鑑	天保武鑑	新板改正 天保武鑑			
63	宝暦武鑑	宝暦武鑑	新改 宝暦武鑑			
64	武家掣要	武家掣要	武家掣要 全	掌中武家掣要/武家掣要		
65	明月記	明月記	明月記	明月記		藤原定家
66	村上文書					

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
[内題]浪速書肆宜英堂蔵/[序]寛政八年丙辰冬十月 津国 三村其原/寛政元年巳酉三月 津国 高瀬識/[卷末]文政庚寅重九月 鳴門荒井公広撰/寛政九年丁巳新鐫 文化二年乙未改正 同十三年丙午補正 天保二年辛卯再鐫 安政二年乙卯九月 大成増補重鐫 蘆屋山人著 荒井半蔵補/書林 大阪心齋橋南久宝寺町伊丹屋善兵衛 同本町貳丁目 奈良屋長兵衛/[奥書]発行書林 江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛 同浅州茅町二丁目 須原屋伊八ほか	安政2年	1855	刊本	25.8×18.1	1冊	羽前 米沢市林泉寺町 伊佐早謙/林泉文庫/窪田蔵書			年表
[内題]帝畿宣風坊 書林 玉池堂蔵版/[序]貞享丁卯仲春上浣滄溟橘龍叙/[奥書]元禄十丁丑歳三月日 寺町五條梅村彌右衛門	元禄10年	1697	刊本	10.7×7.6	1冊		ワ図		
[卷末]明暦二丙申歳仲冬良且/[跋]明暦丙申日南至 耕齋菊池東句	明暦2年	1656	刊本	25.7×18.2	14巻6冊	林泉文庫/昆勝山印	エ図		
[序]万暦元年春正月人日 賜進士中憲大夫陝西按察司副使奉 詔致仕前提督浙江學校臣薛應旂謹序/[跋]万暦二年甲戌秋七月望門人平湖陸光宅頓首跋	明、万暦2年	1574	刊本	26.1×16.4	46巻12冊	林泉文庫/青柳館文庫/内府蔵書	ケ図		林 憲章録 十二冊
[内題]天津街維経堂発兌 道光七年重刊/[序]康熙五十五年潤三月十九日 日講官起居注翰林院侍講學士加五級臣陳邦彦奉/康熙四十九年三月初九日				17.5×11.3	31冊	伊佐早蔵書	カ図		
[序]皇明崇禎五年歲在玄黙潜灘幸月□至琴川毛氏開雕			刊本	24.9×16.1	50巻8冊	伊佐早蔵書	コ図		林 後周書 八冊
[奥付]慶安二曆初春 書林余氏同梓 新開板	慶安2年	1649	刊本	28.0×20.0	上中下巻3冊	林泉文庫/伊佐早兼古書之室	サ図	卅四年買入 共三 慶安二年板	
[序]至大二季重陽日裴庚季昌書/[奥付]元禄十六癸未歳仲春日 既廉堂板	元禄16年	1703	刊本	26.0×18.5	上中下巻3冊	林泉文庫/関口/遊芸	サ図		林 三体詩 三冊 ツ、二部
[序]天保辛丑春社之日、八十老人柳湾館機、書于目白園居鯉梅移中、/[卷末]男佛昆陽 校字/[奥付]天保十二年十二月刻成 東都書林 日本橋通二丁目 山城屋佐兵衛 芝明神前 岡田屋嘉七	天保12年	1841	刊本	9.7×17.9	1冊	白田	サ図		林 雑書（二） サ行
[序]乾隆十一年夏四月朔御製并書			刊本	24.2×15.5	20巻8冊	日新堂蔵書/口定斎蔵/林泉文庫	シ図	□二番外 資治通鑑綱目三編全	一帙 資治通鑑綱目八本/資治通鑑綱目

資料番号	資料名(書名)	『書目』書名	外題(題箋)	内題	柱題	編著者
67	和漢年契	和漢年契	和漢年契 增補大成 全冊	和漢年契	和漢年契	蘆屋山人著 荒井半蔵補
68	倭漢年表録	倭漢年表録		倭漢年表録/年表録	編年史	
69	円機韻学活法	円機活法(韻学)	円機活法	円機韻学活法全書/新刊校正増補円機詩韻活法全書	円機活法 韻学全書 八尾友春	倉州山人 鳳州 王世貞増校 金陵 三山 益軒 唐謙繡梓
70	憲章録	憲章録 唐本	憲章録	憲章録	憲章録	
71	康熙字典	康熙字典 唐本		御製 康熙字典	康熙字典 道光七年奉旨重刊	
72	後周書	後周書		令狐德棻後周書	周書	
73	三体詩	慶安板三体詩	慶安板三体詩	唐三体詩註/[上卷]諸家集註唐詩三体家法/[上卷末]増註唐賢七言絶句三体詩法/[中卷]唐賢七言律詩三体家法/[下卷]増註唐詩五言律句三体家法		
74	三体詩	三体詩	三体詩	唐三体詩註/[上卷]諸家集註唐詩三体家法/[上卷末]増註唐賢絶句三体詩法/[中卷]唐賢七言律詩三体家法/[下卷]増註唐詩五言律句三体家法	三体詩	文陽 周弼伯弼撰 高安 枳門至天隱註 東嘉 裴庚李昌増註
75	三体詩	三体詩	三体詩	三体詩/唐詩三体家法	三体詩	宋 汶陽周弼伯弼 皇和 越後館機枢卿校定
76	資治通鑑綱目	資治通鑑綱目 唐本	資治通鑑綱目	御撰資治通鑑綱目三編	御撰資治通鑑綱目三編	

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
				27.9×20.0	6冊（第三～十、第三十九～四十二まで）	林泉文庫/興譲館蔵書	ツ図		林 通鑑綱目 欠本六冊
[卷末]慶長十一年龍集丙午初秋念又一日紫陽閣室元信叟書焉	慶長11年	1606	刊本	28.0×18.6	5冊	林泉文庫	シ図		林 七書 五冊
			刊本	27.5×17.7	1冊	羽前 米沢市林泉寺町 伊佐早謙	シ図		林 七書軍記図説 一冊
			写本	24.3×17.5	1冊	林泉文庫	月シ図		林 朱子記録 写一冊
[卷末]寛文五稔乙巳四月吉旦 二條通松屋町 寿文堂	寛文5年	1665	刊本	27.5×19.2	1冊	林泉文庫	シ図	史 一	林 朱子行状 一冊
[序]延享丙寅夏五月 浜松 渡邊操 友節撰	延享3年	1746	刊本	26.7×17.3	上下巻（ただし下巻所在不明）1冊		シ図		林 朱子詩伝膏肓 二冊 □□
			刊本	26.8×17.5	1冊	伊佐早謙古書之宝/林泉文庫/佩玉堂	シ図	旧庄内藩致道館出板本	林 尚書 一冊
[序]正大八年二月四日閑口居士趙秉文為題其端 見住燕京東角頭鄭州王家彫印/[卷末]洪武二十九丙子日卒刊/慶安四辛卯曆仲秋吉辰 寺町通内福寺町 秋田屋平左衛門刊行	慶安4年	1651	刊本	26.9×17.5	上下巻2冊	林泉文庫			
[序]淳熙己酉二月申子新安朱熹序			刊本	25.8×17.9	1冊	林泉文庫	夕図		
[大学序]淳熙己酉二月甲子新安朱熹序/[中庸序]淳熙己酉春三月戊申新安朱熹序	天保期		刊本	17.9×12.5	1冊		カ図		
[序]淳熙己酉春三月戊申新安朱熹序			刊本	25.5×16.8	1冊	林泉文庫/伊佐早蔵書	夕図		大
[序]淳熙己酉春三月戊申新安朱熹序			刊本	25.2×17.4	1冊	伊佐早蔵書/林泉文庫	チ図		
皇明崇禎四年歲在重光協洽相月七夕琴川毛氏開雕			刊本	24.9×16.1	36巻4冊	伊佐早蔵書	チ図		
[序]乾隆十五年庚午夏六 望四日御筆/乾隆二十五年三月二十二日奏四月十七日奉到			刊本	16.8×11.1	47巻24冊	羽前 米沢市林泉寺町 伊佐早謙			林 唐宋詩醇 二十四冊
[題辭]崇禎戊寅後学張采序ス/[序]万曆丁未夏日後学焦竑書ス/[奥付]寛文七年丁未冬十一月 京師書肆 二條街 風月荘 左衛門発行	寛文7年	1667	刊本	25.5×17.7	前集10巻 後集14巻 6冊	林泉文庫/飯田蔵書	メ図		林 名臣言行録 十二冊
[題詞]崇禎戊寅後学張采序ス/[序]万曆丁未夏日後学焦竑書ス/[奥付]寛文七年丁未冬十一月 京師書肆 二條街 風月荘 左衛門発行	寛文7年	1667	刊本	25.5×17.8	前集10巻 後集14巻 6冊	窪田蔵書/重遠閣蔵書			
			刊本	18.0×12.5	上巻1冊		マ図		

資料番号	資料名(書名)	『書目』書名	外題(題箋)	内題	柱題	編著者
77	通鑑綱目	通鑑綱目	通鑑綱目	資治通鑑綱目	通鑑綱目	
78	七書	七書	七書			
79	七書軍器図説	七書軍器図説				
80	朱子記録	朱子記録	朱子記録 全			
81	朱子行状	朱子行状		朱子行状	朱子行状	退溪李先生輯注
82	朱子詩伝膏肓	朱子詩伝膏肓	朱子詩伝膏肓	刻朱氏詩伝膏肓	読朱子詩伝 文英閣梓 /青竹楼梓	日本 信陽 太宰純
83	尚書	尚書 旧庄内藩致道館出版本	尚書	尚書	致道館蔵板 尚書	
84	草書韻会	草書韻会	草書韻会	草書韻会		
85	大学章句	大学 後藤点	訂正新刻 大学 後藤点 全	大学	大学章句	朱熹
86	学庸	学庸	学庸	大学 朱熹章句/中庸 章句	天保改正 大学/天保 改正 中庸	朱熹
87	大学	大学 道春点	大学 道春点 全	大学章句		朱熹
88	中庸	中庸	新版改訂 中庸 後藤点 全	中庸章句 中庸 朱熹 章句	中庸章句	朱熹
89	陳書	陳書		姚思廉陳書	陳書	
90	唐宋詩醇	唐宋詩醇	唐宋詩醇	御選唐宋詩醇	御選唐宋詩醇	
91	名臣言行録	名臣言行録	名臣言行録	宋朱晦庵先生名臣言行 録前集/宋名臣言行録 後集	名臣言行録 宋前集	[前集]明後学張采受先評閱 宋学顧令申 馬嘉植培元 忝正/[後集]宋晦庵先生朱 熹纂輯 太平老圃李衡校 正 明後学婁東張采評閱 茂苑宋学頤 当湖馬嘉植 忝正
92	名臣言行録		名臣言行録			[前集]明後学張采受先評閱 宋学顧令申 馬嘉植培元 忝正/[後集]宋晦庵先生朱 熹纂輯 太平老圃李衡校 正 明後学婁東張采評閱 茂苑宋学頤 当湖馬嘉植 忝正
93	孟子	孟子 上 朱熹集註	孟子 上	孟子 朱熹集註	天保 改正 孟子	朱熹

出版事項（奥書・刊記等）	出版/書写年	西暦	写本/刊本	サイズ(cm)	冊数	蔵書印	ラベル	貼紙	付箋
[内題]江戸書林 播磨屋勝五郎/[一卷末]天保十五年庚辰七月 大坂書林 心材橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門 江戸書林 日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛ほか/[一卷末]天保十五年五月日 栗原孫之丞信口蔵板/江戸書林 文苑閣 日本橋通十軒店 播磨屋勝五郎発兌/[続奥付]三都書林 京都三条通升屋町 出雲守寺文次郎 大阪心齋橋筋安堂寺町 秋田屋太右衛門ほか	天保15年	1844	刊本	18.1×12.1	[正]2巻[続]2巻4冊	林泉文庫	フ図	国史系譜 共四 天保十五年版	林 応仁武鑑 四冊/ 応仁武鏡
[内題]慶應四戊辰春新鐫東都書肆 一貫堂発兌/[序]慶應三年丁卯三月穀旦 沼田城主 土岐頼之/慶應丙寅桂月旬又八莫秋月種樹識 木邨凝之書/元治紀元甲子隴月 魯齋川碯履謹識 古関大鷗直如書/[卷末]男 川崎行恭 門人 若松行尚 猪野中行 同校/[跋]慶應三年丁卯正月穀旦昌平覺助教猪野中行撰/[奥付]尚志堂蔵板 慶應四辰年春刻成 製本書林 芝飯倉町五丁目 万屋忠蔵発	慶應4年	1868	刊本	25.5×17.7	1冊	林泉文庫/渡邊蔵書	カ図		
			刊本	17.8×12.0	1冊	林泉文庫	カ図		
[序]崑嘉靖己亥孟冬月吉 大明国前進士 浙江解元東口南禹外史豊存叔書	江戸初期カ		写本	18.0×12.4	1冊	林泉文庫/米沢蔵書	シ図		林 城西聯句 「米沢蔵書」ノ印アリ 写 一冊/城西聯句全
[内題]東京 甘泉書屋蔵版/[明治文抄奥書]版權免許 明治十年八月八日 編輯人 宮城県士族 高橋易直 第二大区三小区愛宕下町四丁目老番地 出版人 東京府平民 山中市兵衛 第二大区五小区 芝三島町十番地 本銀町二丁目 山中孝之助 発兌書房 銀座四丁目 山中北部/[続明治文抄]版權免許 明治十年十二月廿六日	明治10年	1877	刊本	22.3×15.1	7冊	林泉文庫/齋藤蔵書/製本師菊仲音次郎	×図		林 明治文抄 七冊
			刊本	24.3×12.7	1帖	林泉文庫/和漢口帖口品 東京第六大区八小区長谷川長寛 本所石原町九拾番地	セ図		林 前赤壁之詞 一冊
			写本	14.3×23.5	1冊		サ図	口八三	口 雑記録 写 一冊
			写本	23.9×16.8	1冊		サ図		マ3 林 雑記録？ 写 一冊
[内題]山形県知事田中貴道題字 山形県会議長池田成章序/[序]明治三十八年十一月 山形県会議長 池田成章/[奥付]明治三十八年十一月廿五日印刷 明治三十八年十一月三十日発行 山形県第一課印刷者 山形県七日町五百拾六番地 五十嵐太右衛門 印刷所 山形市七日町五百拾四番地 山形活版社	明治38年	1905	刊本	25.7×18.1	1冊		ヤ図		林 ヤ11 山形県会史 一

資料番号	資料名（書名）	『書目』書名	外題（題箋）	内題	柱題	編著者
94	応仁武鑑	応仁武鑑		天保新鐫 京都將軍家 所領役考/弘化新鐫 鎌 倉管隸所領役考		柳菴栗原信充編集
95	孝經參釈	孝經參釈	孝經參釈	慶應四年戊辰春新鐫 孝經參釈 全	孝經參釈 尚志堂蔵板	魯齋川碕履著
96	孝經余師	孝經余師	孝經余師 全		經典余師 孝經	
97	城西聯句	城西聯句	城西聯句 全	城西聯句		
98	明治文抄 続明治文抄	明治文抄	明治文抄/続明治文抄	明治文抄/続明治文抄	明治文抄/続明治文抄	高橋易直編輯
99	前赤壁之詞	前赤壁之詞				
100	雑記録	記者不明雑記録 外題欠				
101	雑記録	雑史記（外題欠）（雑史記）				
102	山形県会史	山形県会史	山形県会史 全	山形県会史 全		